



国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

国立健康・栄養研究所

National Institute of Health and Nutrition
National Institutes of biomedical Innovation, Health and Nutrition

健康づくりと栄養に取り組んで1世紀

当研究所はオリンピック・パラリンピック東京大会の年に100周年を迎えます



【交通アクセス】 東京メトロ東西線 早稲田駅下車(2番または3b番出口)徒歩10分
都営大江戸線 若松河田駅下車(河田口下車)徒歩10分
東京メトロ副都心線 西早稲田駅下車(2番出口)徒歩15分



国立健康・栄養研究所ロゴマーク

日本のすべての人の栄養と健康的な生活を守る大切な研究機関を国民の男女が健康を謳歌する姿で描きました。イキイキしたグリーンとさわやかなブルーで健康と栄養を、研究の成果をオレンジの太陽でイメージしています。

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

国立健康・栄養研究所

〒162-8636 東京都新宿区戸山1-23-1

健栄研 で検索!



— ご挨拶 —

理事兼所長 古野純典

当研究所は、1920年9月に内務省に置かれた栄養研究所が始まりです。100年近くにわたり、皆様の栄養・食生活の改善と健康増進に取り組んでまいりました。2014年にはWHO協力センターとしての国際協力活動を開始し、2015年には独立行政法人医薬基盤研究所との統合により統合法人の一つの研究所になりました。医薬品開発研究と食品・栄養研究の専門性を融合させることが期待されています。これからも、国民の負託に応えるべく、調査・研究に取り組み、健康長寿社会の形成に貢献してまいりますので、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



移転当時の研究所
(1970年)



ヒューマンカロリメーターによる
エネルギーの測定
(2000年)



トレッドミルによる
運動能力の測定
(1970年頃)

1989

国立健康・栄養研究所に改称
栄養・運動の包括的な
研究を進める

1992

現在の厚生省戸山庁舎へ移転

2000

ヒューマンカロリメーターを設置
(日本初)

2001

独立行政法人化

2014

WHO協力センターに指定

2015

独立行政法人
医薬基盤研究所と統合

初代所長 佐伯 矩

日本人栄養要求量を決め、単位式献立法を提案。日本食品成分総覧を作成し、栄養計算を可能にした。栄養士育成、栄養実務講習会、小学校・工場等の給食を通して国内外に、栄養学を根づかせた「栄養学の父」と言われる。



1948

新宿区戸山町一に移転

1947

国立栄養研究所に改称

1938

厚生省創設に伴い、
所管が内務省から厚生省に移管

1921

小石川駕籠町の
新庁舎に移転

1920

内務省に栄養研究所が置かれる
(初代所長:佐伯矩博士)



創立当時の研究所
(1922年)



創立当時の研究風景
(1922年)



ヒューマンカロリメーター
によるエネルギーの測定
(1922年頃)



学校給食
(1947年頃)

研究所のミッション

食事・栄養と身体活動・運動の研究を通して国民の健康寿命の延伸と健康格差の縮小に貢献します。

①

健康・栄養や健康食品に関する正しい情報を提供し、国民の安心・安全確保に努めます。

②

国民健康・栄養調査や食品の成分分析等、国の仕事に貢献します。

③

研究所の歩みは日本の健康・栄養研究の歴史です



現在の研究所
(2015年)

国立健康・栄養研究所は 皆様のパートナーです

当研究所は、健康・栄養に関する研究を効果的に推進するため“開かれた研究所”として、大学や企業等との連携に力を入れています。当研究所の知的財産や技術・人材、資源を有効に活用していただき、皆様とともに発展的な研究や人材育成等を積極的に進めたいと考えています。さまざまな可能性をご提案ください。

- 研究指導
- 人材交流
- 共同研究
- 受託研究
- 寄附研究

国際協力、産学連携をもとに
国内外における研究ネットワークを築きます。
国際シンポジウムや一般公開セミナーを開催しています。

適切な健康情報を広く発信します。
所内の活動状況および国内外の健康・栄養・身体活動に関する情報を発信しています。

健康施策の立案及び評価に役立つ
研究を行います。

国民の好ましい食習慣や
身体活動習慣の確立を支援し、
生活習慣病の予防および
改善を目指します。

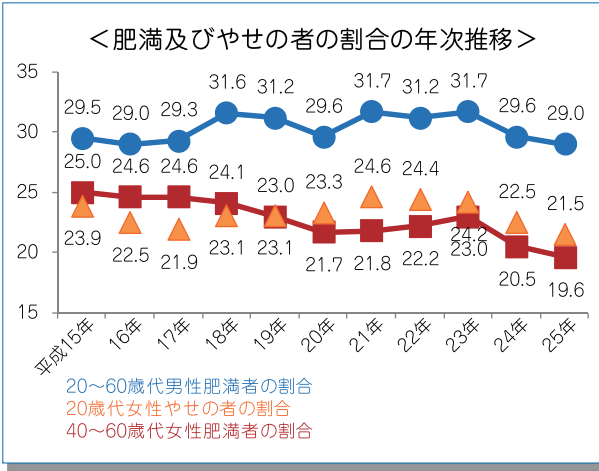


健康寿命の延伸と 健康格差の縮小に 貢献します

栄養教育手法の開発
スマートフォンアプリを用いた食生活改善手法の開発に取り組んでいます。



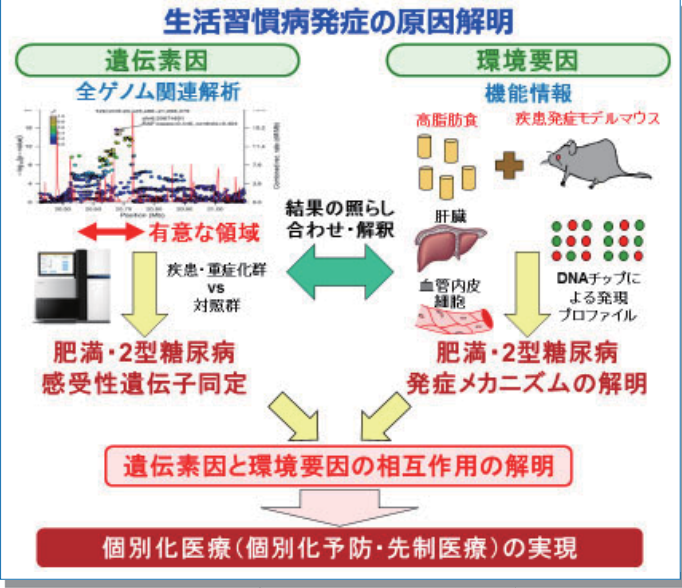
国民健康・栄養調査の集計
健康づくり対策を進める上での資料として活用されています。



食事摂取基準の活用
食事摂取基準を活用した「栄養の参照量」の普及に取り組んでいます。



生活習慣病発症の原因解明
日本人に特有な2型糖尿病感受性遺伝子や肥満・2型糖尿病の発症のメカニズムを明らかにします。



国民の身体活動・運動習慣確立への貢献
厚労省の身体活動基準や指針の策定に資する研究を行います。



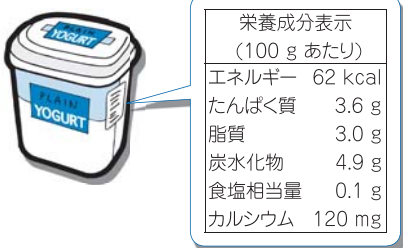
エネルギーや主要栄養素の
適切な摂取法の提示
二重標識法やヒューマンカロリーメーター等を用いて、エネルギーや主要栄養素の適切な摂取法を検討します。



「健康食品」に対する正しい情報を発信
健康食品関連の情報をデータベースとして提供しています。



栄養成分表示の信頼性確保
食品の成分分析、栄養生理学的評価並びに有効性・安全性評価等を通して食の安全確保に貢献します。



栄養成分表示 (100 g あたり)	
エネルギー	62 kcal
たんばく質	3.6 g
脂質	3.0 g
炭水化物	4.9 g
食塩相当量	0.1 g
カルシウム	120 mg